

高2のとき、地球の環境が荒れているのなら植林しようと思い、造園の道へ。その後活動のフィールドを広げるため、木を育て、切って材木(建材)を作る林業を始める。現在は林業から派生して、危険木伐採と山業をしている。山業は山から生きる糧を得ることで、有害獣の駆除やスズメバチを食用として穫ったり、万年葛を採ったりすること。なかなかお金を得にくい、一番やりがかったことで、自分が山業で山から糧を得たときには食物連鎖の歯車を回しているんじゃないかなとやりがいを感じる。昔は山のサイクルのひとつに人間の活動が入っていたが、人間が山の中に入らなくなったことで食物連鎖の人間の部分が薄くなり、イノシシやシカが増えるなどバランスが悪くなっている。



上の世代は「あーお疲れ様ね」と言ってくれるけど、若い世代からは「木切るなよ」と言われることがあります。木を切ったら環境に悪いという認識が強いんです。木も生き物で枯れたり病気になる、死んだら死ぬ。僕たちはみな、その命をいただいで生きています。

## 木こり



さんぎょうあいさん  
山業愛山  
**田中 佑樹さん**

定年になる歳に、何かやりたいなと思い、友達のすすめでみどりの基金の森林インストラクター養成講座を受講し、一期生の仲間と平成21年に森林の学校一歩会を結成。チェーンソーや刈払い機を使っての活動が楽しく、あっという間に12年が経ったと感じる。現在、鹿児島市四元町の森林を整備し、市民が憩える森づくりを行っている。伐採した木は、郡山に運び炭焼き窯で木炭や薪にし、伐採後には山桜・イロハモミジ・クヌギを今までに計100本植樹した。始良市北山では竹林整備の後に、森林保全の大切さを伝える自主活動として、親子を中心とした竹の子掘りやくヌギ苗の植林等、自然に親しむ体験活動を実施。きつい作業もこれからの子供たちのためになっているのかなと思うと、それが生き甲斐になっている。

## 森林ボランティア



森林の学校 一歩会  
**児玉 時和さん・齊野 隆志さん**

昔はガスがなかったから、火鉢やコタツとかに炭を使っていました。近くの山に炭を運び取りに行き、木を切り出して薪にしていたので里山が保たれていました。今は必要なくなったので山が荒れていきます。もっと有効に利用できたらよいですね。

# 木 森 で育むいのちと未来

わたしたちと同じように呼吸する樹は、光合成をして二酸化炭素を吸収し酸素を作り出します。その樹が生きる森林は、水を育み、さまざまな動物が育ち、木材や林産物を供給してくれます。すべての生きものに安らぎを与えてくれる、地球にとって無くてはならない存在。そんな鹿児島島の森林をフィールドに活動する方々に、想いを伺いました！

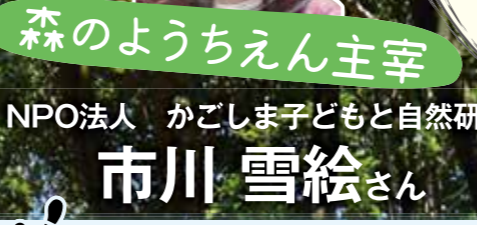


みんな、花一輪胸にさそうよ。疲れたと思って、も、緑を見たり花を見たりすると、あ、かわいいな、きれいだなあという気持ちが湧いてきて、優しくなれる気がします。ちょっとした余裕があればいいかな、みずみずしく取れそうですね。



**樹木医**  
かつらぞうえん  
株式会社 桂造園 専務取締役  
**間世田 明里さん**

雨の日も寒い冬の日も、子ども達がとても生き生き活動しています。森では、やらされたり手えられたりすることはなく、自分たちで考え、発見し、あらゆる経験を主体的にできる環境があります。森という環境が、不自由で不都合だからこその起こる化学反応です。



**森のようちえん主宰**  
NPO法人 かがしま子どもと自然研究所  
**市川 雪絵さん**

高校の頃、家業の造園業でアルバイトをしたとき、職人さんや父の「木の声が聴こえるんだ」という絶妙な感覚に魅かれ、造園の道を志す。経験を重ねるうちに、樹木医ってどれくらいものを感じ取ってどんなことがわかるんだろう？と資格を取得した。取得してからの方がむしろ分からないことが増え、日々研究や勉強を重ねている。普段は保存樹林や庭木の定期的な診断や治療、実際の樹勢の回復作業、公園や街路樹の点検作業などさまざまな仕事をこなす。仕事ではさまざまな機器を使って木のことを知ろうとするが、どんなに高価な機器を使ったとしても、自分の五感を使って感じ取ったことが、最終的には一番頼りになる。自然と人間とが共存できる場を作っていくことが、自分たちの職業であり魅力なのかなと考えている。

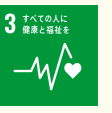
以前は、環境学習施設の職員をしていた。施設を訪れる小中学生たちはみな知識が豊富で、ゴミの3Rも地球温暖化のメカニズムも生き物の生態についてもほとんど100点満点だった。しかし、実際にアクションはしないし、生のカエルには触れなかった。そんな実体験が抜けた机上の学びに危機感を覚え、感じる心(センスオブワンダー)を育てるかがしま森のようちえん事業を始業し、鹿児島市街地に残る森林を使って、赤ちゃんから大人まで通うことができる、園舎のない森のようちえん(NPO法人)を運営している。活動を通じて、学ぶべき・変わるべきは、子どもたちではなく実はわたしたち大人ではないかということに気がつく。森のようちえんは、子どもたちの学びの場というだけでなく、自然や子どもを介した大人の学び場にもなっている。



森と聞けば、15番の「陸の豊かさも守ろう」が頭に浮かびますが、みなさんに意識して取り組まれているSDGsの目標をお聞きしたところ、さまざまな目標が挙がりました。



森はたくさんの命の宝庫であること、社会や経済を作る基盤になっていること、地球温暖化の解決に不可欠であることなど、森が私たちにもたらしてくれている恵みは、はかり知れません。



みなさんもこれをきっかけに、森についてもっと学んでみませんか？



### 未来館で、森について学ぼう！

- 6月環境月間企画展  
6/5(土)~6/23(水)(休館日を除く)  
**森でHugくむいのちとミライ**
  - 未来館講座(要 事前申込み)  
8/18(水) 間世田さんに会えるよ！  
木のふしぎをときあかせ！  
~樹木はかせになるう~  
9/8(水) 市川さんに会えるよ！  
森でみつけた育ちの芽  
~森のようちえんの子育て~
- ◎企画展や講座のお申込み・詳細は、ホームページに順次公開予定です。

二酸化炭素の濃度は森林の働きで季節によって違います。未来館ゾーン4の展示・デジタル地球儀でもその様子をみてみましょう！

